

2019年度 第1回番組審議会

議 事 録

株式会社エフエム戸塚

横浜市戸塚区川上町 91 番地 1

2019年5月16日

2019年度 第1回番組審議会 議事録

- 日 時 : 2019年5月16日(木) 13:30~14:30
 - 場 所 : 株式会社エフエム戸塚 会議室
 - 出席者 : 番組審議会委員3名(1名レポートで参加)
金子富康、鈴木裕子、齋藤進治、
(欠席:井上弘毅、岩崎高広)
 - 事務局 : 代表取締役・福原稔、顧問・紺野望、局長・市川靖典 増田一輝
 - 議事録 : 番組審議会事務局作成
-

■議題

1. 番組:4月10日(水)収録放送番組
「モナオと奈々子のごきげん歌謡曲」に関するご意見について
(放送時間 第2・第4水曜日 10:00~10:55、日曜日 19:00~19:55
パーソナリティ:モナオ・正木奈々子)
2. 放送番組全般に関するご意見・ご感想について
3. その他ご意見ご感想について

■議事

1. 番組: 4月10日(水)「モナオと奈々子のごきげん歌謡曲」に関するご意見
～番組の説明～

この番組は毎月、第二・四水曜日、日曜日に、昭和の名曲から最新のヒット曲や注目曲までを、演歌・歌謡曲の魅力をたっぷり紹介しています。ゲストをお迎えしての楽しいトークもお送りしています。

—各審議会委員からの意見は次の通り。

審議会委員(A)

- ・リスナーの対象をどこに置いているのか、初めてこの番組を聴き、馴染み深いと感じる事は出来ませんでした。
- ・正木さんの語尾が少しラフに感じた。コンセプトと合っているのか疑問。
- ・「ピー音を入れてもいいですか」という会話に違和感があり、何のことか分からなかった。

審議会委員(B)

- ・普段はあまり聞かない番組で、実際に聴いてみて「そういえばあったかな」と感じました。
- ・特に歌謡曲の番組という事もあって歌を聴くとグッとくる場面もありました。今回の放送でゲストの人の「死ぬまで歌い続ける」という言葉などから人柄をととても感じる事が出来ました。まさに「聴く人ぞ聴く」というようなラジオ番組でした。

- ・南日本放送で「テレビはラジオに学べ」という記事を見ました。テレビであれば視聴率というものが明確に数字として判断できますが、エフエム戸塚における聴いている人の数（聴取率）を知りたいと思いました。

審議委員（C）（当日欠席のため、書面にて意見が寄せられました）

- ・聴取したことはありませんでしたので、番組名から歌謡曲、フォーク、ニューミュージック、一般を扱った番組かと想定したところ、終始、演歌またはムード歌謡に特化した番組であったことは意外でした。
- ・放送に当たり対象層をどのように想定していらっしゃるかが若干不明でした。私も50歳代後半になりますが、例えば年代はもっと上でしょうか。「木綿のハンカチーフ」も懐かしのメロディー、昭和の名曲として扱われるようになって久しく、それはそうなのかと理解しますが、一方、本番組で扱われた楽曲そのものは新しいとしても、そのジャンルを含め、私の個人的なアンテナが低いためか、共感が少し難しいと感じました。
- ・話題として出た船村徹氏の名前は存じ上げており、偉人なのだなあ、という感覚はありますが、パーソナリティのお二人、ゲストの方も存じ上げず、その点も番組聴取をしていてアウェー感を抱いた原因かもしれません。
- ・創作側、放送側として本番組の放送に対するニーズを把握されていらっしゃるのであればよいと考えます。

審議委員（B）

- ・放送時間帯がこの時間帯で良いのかという疑問がありました。進行上、どちらが進めていくのか不明瞭でトークが井戸端会議の様に感じてしまった。
- ・個人的に、ちあきなおみさんの「矢切の渡し」が流れた時は感動した。年代的にも知っている曲が多く一気に引き付けられた。
- ・歌番組なので知っている曲も含め、曲を増やし、ゲストさんの曲紹介も含め曲の意味合いなども入れ込むことが出来ればよいと感じました。

—各審議委員からの意見に対し、事務局からの回答は以下の通り

- ・聴取率に関して、首都圏のラジオ局は共同でビデオリサーチなどに依頼し2ヶ月に1回調査を行っている。コミュニティ放送局は金銭的な理由で対応しきれず調査は行っていません。弊社の場合はリスナーの反応を、アプリのダウンロード数から1つの目安の数字にしています。
- ・アプリは基本的にネットワークの環境が整っているとどこでも聴くことができます。1ダウンロードにつき業者に対し一定の料金を弊社が支払うシステムとなっています。（ダウンロード代金の負担）。現在、ダウンロード数は2万件です。

- ・災害時の対応に関しては、現在、10Wにて放送していますが、許可がおりれば10Wから数十ワットに切り替える事が可能です。このことにより各局と連動し広範囲（可聴範囲外）にラジオ放送を行う事が可能になります。常に「災害の際のラジオ局」と認識を持って頂くため、日ごろのイベントでラジオ局を知ってもらいリスナーを定着させる事に励んでいます。

2. 放送番組全般に関するご意見・ご感想について及び、3. その他ご意見ご感想について

審議委員（A）

- ・災害時の対策は、訓練が必要と感じます。

審議委員（B）

- ・スポンサーに関して「どう増やしていくべきなのか」。あるいはスポンサー料について高いとの声もあります。その辺を今後検討していく必要があるとおもいますが・・・。

—各審議委員からの意見に対し、事務局からの回答は以下の通り。

- ・災害時、停電となっても、発電機でスタジオに電源を供給することが可能です。他局とは異なり3階に受信機（送信所）があるのですぐに電波が発信出来る仕組みになっています。
- ・スポンサーに関しては年度により変動等がありますが、「災害の為に」水や食糧と同じく備えとして出資してもらい様お願いをしております。皆様の支えあつてのラジオ局となりますので引き続きのご支援をお願いしている状況でございます。

■審議会は、次回の日程を確認し終了した。

次回開催日：2019年7月11日（木） 13：30～14：30